アジアにおけるESD国際協力カリキュラムの開発
—高等学校を中心にして—

大 阪 大 学
中村安秀

1．目的　ESD 国際カリキュラムモデル開発及び協同実践

ESD（Education for Sustainable Development）で扱うべき内容は、人権・平和・環境・貧困・健康・多文化・教育・情報などの多岐にわたる。現代の社会を、持続可能な社会へと転換することを目指して、ESD をどのように進めるか、あるいはその目標や方法をどのように設定するかは、それぞれの国や地域の実情に応じて大きく異なっている。本事業活動は、このような各国の事情を踏まえながら、アジア各国で ESD の共通目標とプロセスを共有し、共に未来を創造することを目的として、アジア地域共通の ESD 国際カリキュラムモデル（試行版）を多国間の参加と協同作業によって開発し協同実践を行う。

2．活動　対象地域　タイ、フィリピン、中国、韓国、日本

本事業は、大学（大阪大学、お茶の水女子大学）での途上国支援の研究成果と、大阪の高校(大教大附属池田校舎、大阪府立北淀、羽衣学園)が進めてきた UNESCO ASPnet(Associated Schools Project network)での多国間協同実践の成果に基づき、ESD の国際カリキュラムモデルをアジア地域の高等学校による参加と協同作業によって開発する。

第1ステージ ： 国際カリキュラム作成のためのフレームワークづくり

ESD で扱うべき諸課題と身近な課題を結びつけた国際カリキュラム開発フレームワークを形成。

第2ステージ ： 国際カリキュラム試行版の協同開発

各国高校教員がワークショップを行い、フレームワークをもとにカリキュラム原型を作成する。

第3ステージ ： 国際カリキュラム試行前の事前調査の実施

国際カリキュラムの効果を把握するため、生徒の ESD に関する知識・態度・価値などを事前に調査。

第4ステージ ： 国際カリキュラム試行版の実践

各国の実情に合わせた適切な時期に、協同開発された国際カリキュラムを参加校で試行する。

第5ステージ ： 国際カリキュラム試行版の検証（2010 年 2 月ごろ）

開発した国際カリキュラム試行版の実践成果を生徒間のディスカッションを行って検証・確認する。

3．成果

（1） 期待する成果

この国際カリキュラム試行版は、参加が容易なカリキュラムとしているため、国内はもとよりアジア各国で広がることを意図している。また、今年度の試行版の成果は来年度のより質を高めた内容へと発展する。

（2） 成果物

1．国際カリキュラム試行版 ： ESD の理念およびカリキュラムモデュール。カリキュラム作成の意図、狙い、授業主題、授業単元毎の内容と意図・ねらい、用いた教材と指導法、検証方法が含まれる。

2．国際カリキュラム試行版開発過程および実践記録ビデオ ： 国際カリキュラム試行版がどのような過程を経て開発され、具体的にどのような実践であるかを明らかにする。

アジアにおけるESD国際協力カリキュラムの開発
―高等学校を中心にして―

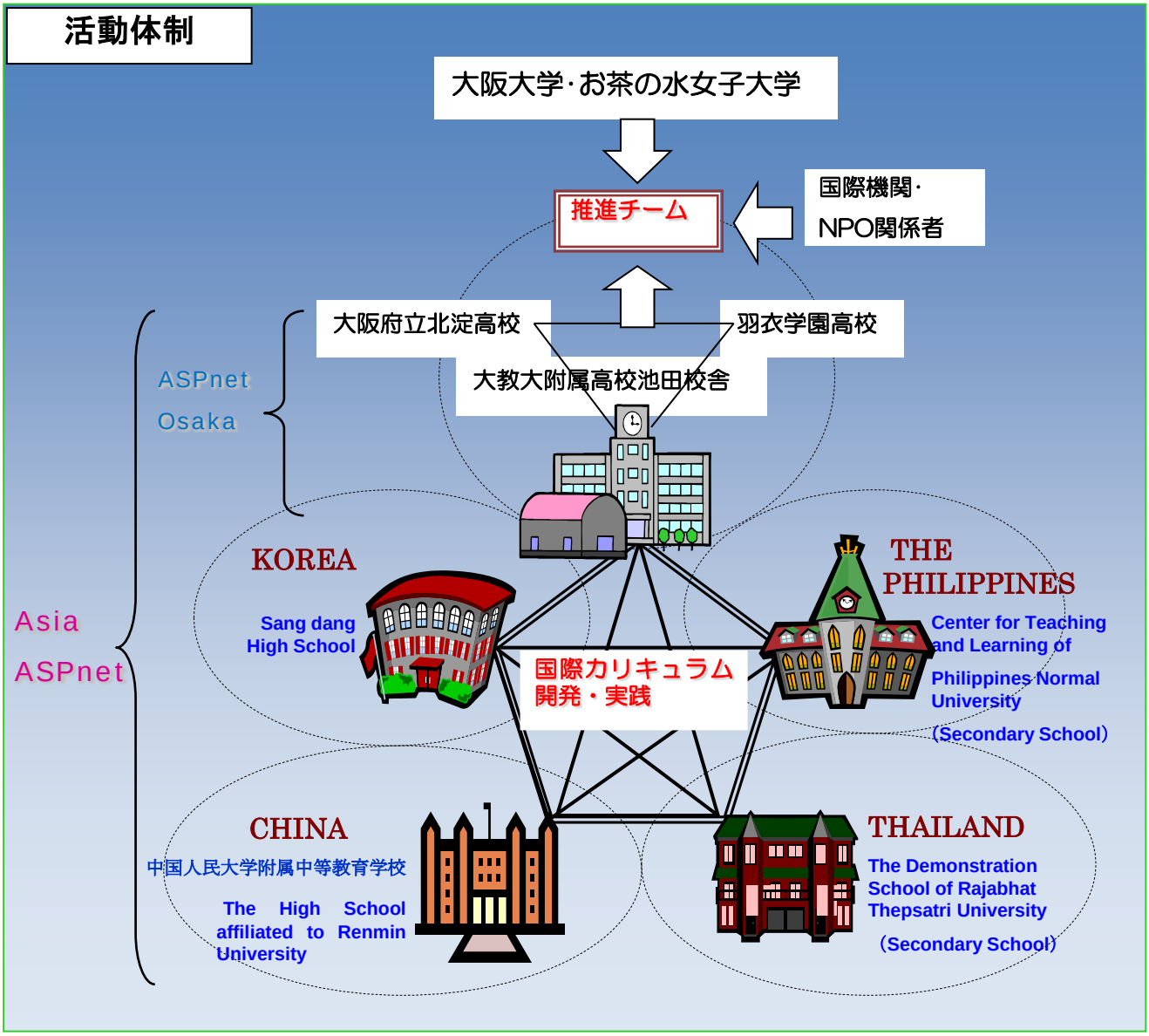
大阪大学大学院人間科学研究科

目　的： 大学での豊富な途上国支援の研究成果と、大阪の高校が進めてきた
UNESCO ASPnetでの多国間協同実践の成果に基づき、アジア地域の高等学校で
ESDの国際カリキュラムモデルを多国間の参加と協同作業によって開発する。
これにより持続可能な社会に向けて求められる能力・知識・意欲・態度・価値を、
アジア各国の高等学校が共有し、実践することを目指す。

活動：
国際カリキュラム作成のためのフレームワークづくり
国際カリキュラム試行版の協同開発
国際カリキュラム試行版の実践と検証

成果物：
国際カリキュラム試行版（各国語版）
国際カリキュラム試行版開発過程および実践記録ビデオ

活動体制



アジアにおけるESD国際協力カリキュラムの開発
―高等学校を中心にして―

大阪大学　中村安秀
お茶の水女子大学　内海成治
発表：大阪教育大学附属高等学校池田校舎
伊井直比呂

1

事業の目標

- アジアでESD協力カリキュラムを協同開発
  - ➢ 共に未来を創るためのカリキュラム開発

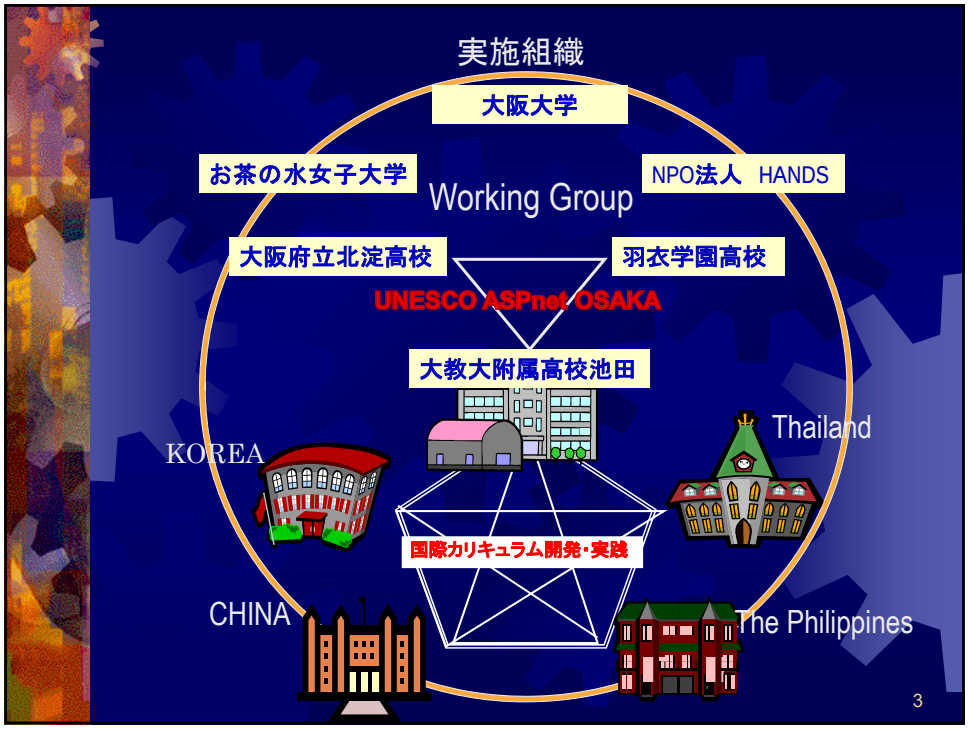
そのために

  - ➢ 対等な参加／学びあう参加
  - ➢ 教員が学校・地域・国の課題に着目

このカリキュラムで

  - ➢ 傍観者としての知　→　問題と問題解決の当事者としての知と態度を育む

2


実施組織
大阪大学
お茶の水女子大学
NPO法人　HANDS
Working Group
大阪府立北淀高校
羽衣学園高校
UNESCO ASPnet OSAKA
大教大附属高校池田
KOREA
Thailand
国際カリキュラム開発・実践
CHINA
The Philippines
3

UNESCO ASPnet School
= UNESCOの精神にもとづく教育
具体的に：平和・自由・公正・人間開発　の追求
子ども・若者の学習要求を満たす
1. Quality Education for All
2. UN Millennium Development
3. UNESCO's medium-term strategy
4. The four pillars of education for the 21st Century（ドロールレポート）
4

学習領域

①. ASPnet and UN priorities
②. Education for Sustainable Development
③. Peace and Human rights
④. Intercultural Learning(文化間学習)

⇒ ASPnetの核心（Mutual Learning）
世界の諸問題(環境･紛争･貧困 など)
自文化理解、異なる文化への関心･理解･相互尊敬、
➢多国間協同実践(Flag Ship Project),
➢世界遺産教育 ➢ Mondialogo ほか

5

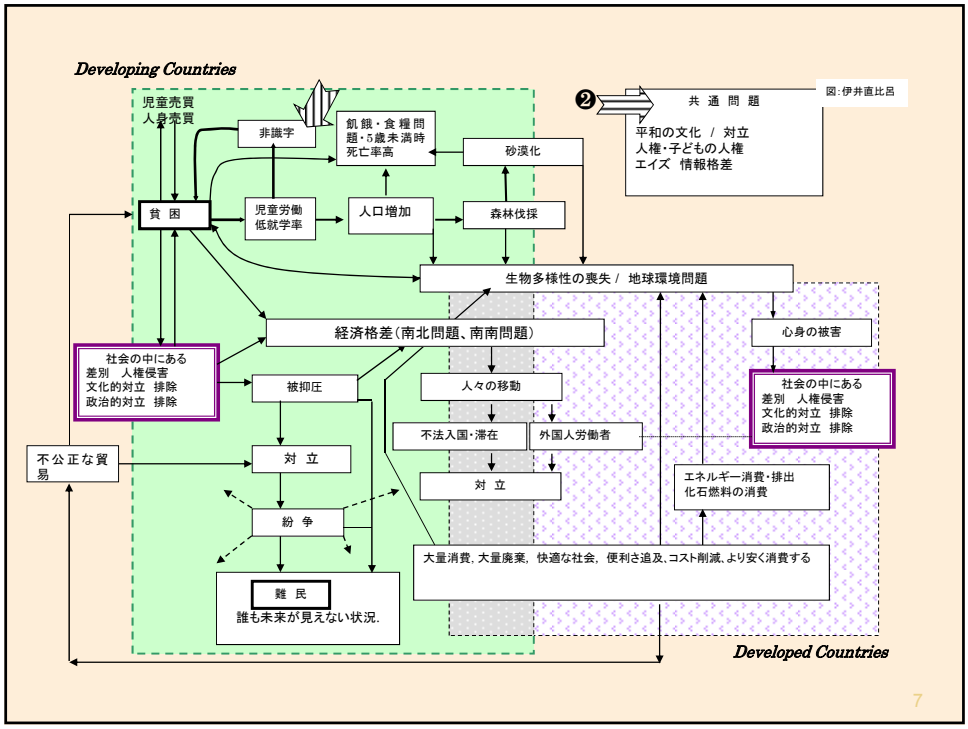
Key Themes in ESD

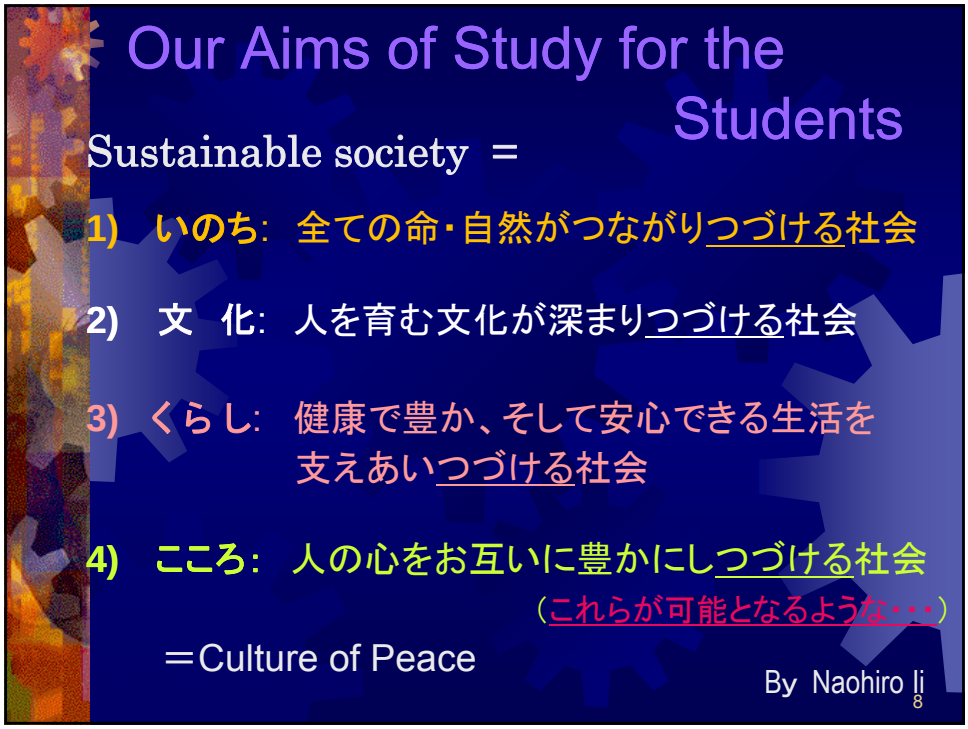
全ての人（未来世代の人）の共通の未来

貧困の克服
ジェンダー
健康の増進
環境保護
地方(農村)の開発
人 権
異文化間の理解と平和
持続可能な生産と消費
文化的多様性･生物多様性
ICT ･情報通信技術

By UN Decade of Education for Sustainable Development

6


Developing Countries
児童売買
人身売買
非識字
飢餓・食糧問題・5歳未満時死亡率高
砂漠化
貧 困
児童労働
低就学率
人口増加
森林伐採
❷
共 通 問 題
平和の文化 / 対立
人権・子どもの人権
エイズ 情報格差
図：伊井直比呂
生物多様性の喪失 / 地球環境問題
経済格差（南北問題、南南問題）
心身の被害
社会の中にある
差別 人権侵害
文化的対立 排除
政治的対立 排除
被抑圧
人々の移動
社会の中にある
差別 人権侵害
文化的対立 排除
政治的対立 排除
不法入国・滞在
外国人労働者
不公正な貿易
対 立
対 立
エネルギー消費・排出
化石燃料の消費
紛 争
大量消費，大量廃棄，快適な社会，便利さ追及、コスト削減、より安く消費する
難 民
誰も未来が見えない状況.
Developed Countries
7


Our Aims of Study for the Students
Sustainable society ＝
1) いのち: 全ての命・自然がつながりつづける社会
2) 文 化: 人を育む文化が深まりつづける社会
3) くらし: 健康で豊か、そして安心できる生活を支えあいつづける社会
4) こころ: 人の心をお互いに豊かにしつづける社会
（これらが可能となるような・・・）
＝Culture of Peace
By Naohiro Ii
8

人間の尊厳と自然への畏敬にもとづく

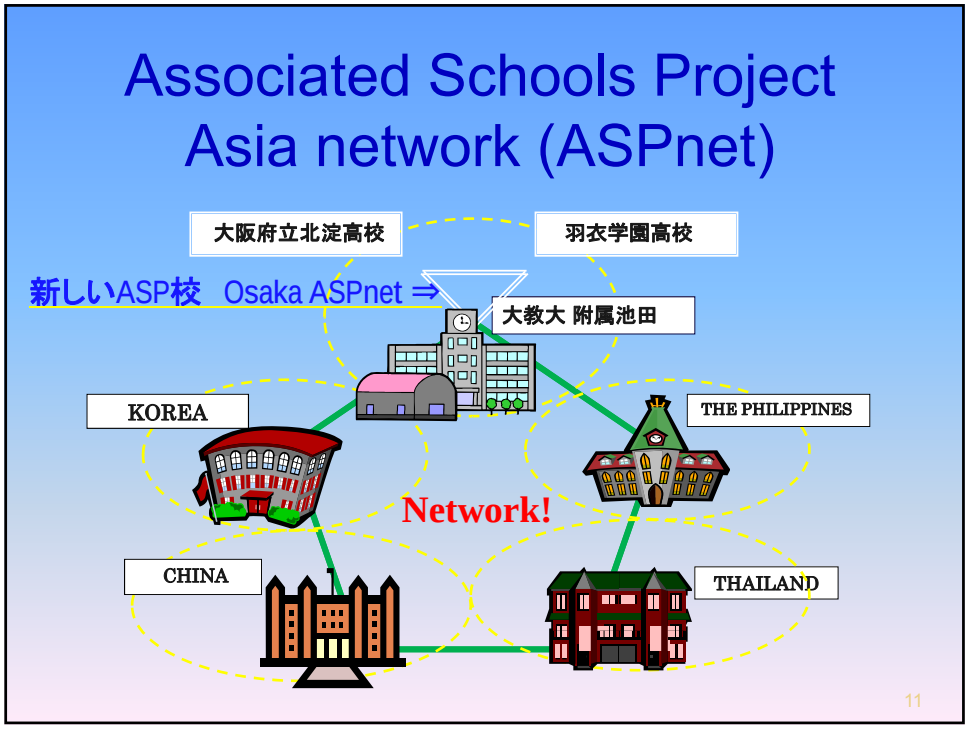
- 心の開発、
- 態度の開発、
- 理解する力（想像力）の開発（深める）、
- 考え方の開発、
- 人間性（思いやり、学ぶ姿勢など）の開発、
- 価値（公正さ、寛容さなど）の開発、
- 制度（組織化など）の開発、
- 社会の開発、Life Styleの開発・・・・・

9

つまり、ESDは・・・・・

- ある特定の人のために未来があるのではなく「すべての人」のための未来を築く教育
- そのために、環境教育、人権教育、平和教育、世界遺産教育　という従来の枠組みを超え、学校や地域の課題と問題から出発して身近に「持続可能な社会」を築く「知」や「心・態度」を開発する学び。
- 「傍観者」から「当事者」としての地位へ

10


Associated Schools Project
Asia network (ASPnet)
大阪府立北淀高校
羽衣学園高校
新しいASP校　Osaka ASPnet ⇒
大教大 附属池田
KOREA
THE PHILIPPINES
Network!
CHINA
THAILAND
11

Learning Together
ESD
12

それぞれの地域や国にそれぞれのESDがある

だからこそ
個別性と普遍性のESD

13

「アジア・北欧7カ国 ESD高校生国際会議」

14

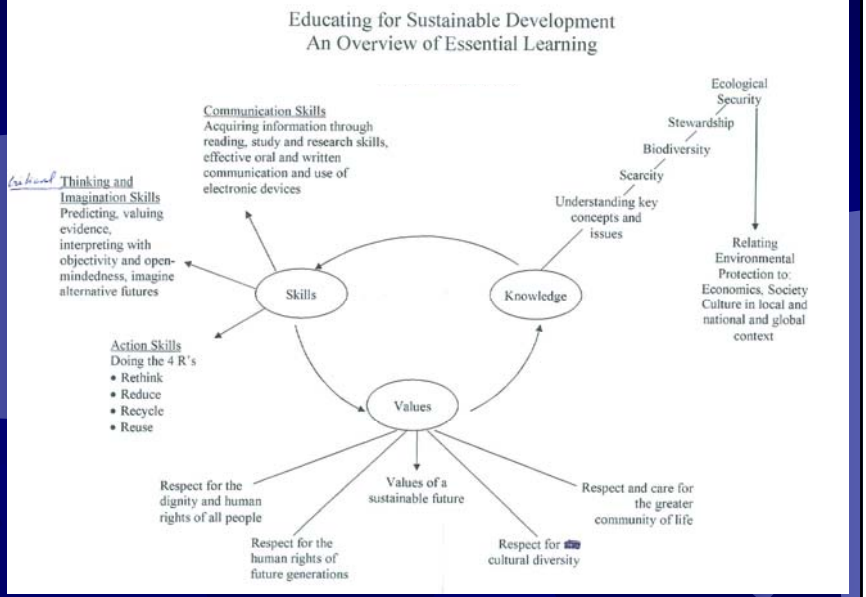
カリキュラム開発ワークショップ

15

16

各国協同でまとめたESDで獲得すべき知識・技能・態度など

Knowledge		Skill		Attitude		Other	
Goal	Way	Goal	Way	Goal	Way		
to have a clear vision for how we can contribute the society	to exchange ideas above generations	cultural literacy	to understand myself deeply	care for future generation *Mountains *Forest *Clean rivers	to have deep awareness of one's legacy to future generation	all living things can continue to live	
		media literacy	to know diversity of value	care for others	envision a future *My future dream world 2020 *draw poster/ drawing	all people support each other	Korea
		communication skills	to be aware of problems around us	live simply *avoid excess/extravagance		all culture will develop	China
		critical thinking	to have responsibility	be nice to people		The relationship between people and people.	Thailand
		tolerance	Cross Cultural Awareness Programs			The relationship between people and nature.	The Philippines
		learning through practical experience	SAMA-SAMA(together) *Learn *Understand *Live			The relationship between all living things and people.	Japan
		participating learning					Students
		communicate *Greeting *Smiling *Telling					



18

カリキュラム構造

- Step1　事実認識
  - ➢持続可能性を阻害する事実や連関
  - ➢持続可能性を深める事実や連関
- Step2　問題把握と分析
  - ➢なにが、どのように？
  - ➢異なる問題？ 同じ問題（同根）？
- Step3　提案・解決
  - ➢問題解決のための X
    (態度、考え方、価値、制度、実践)

19

Step 1

International ESD Curriculum

Curriculum Module Plan for 6-8 hours.

Step 1 :【Recognition of Facts】(2 hours)

Among the five countries, present and share photographs, reference materials, and clippings which show the current situation (issues) that disturb (or which are thought to be disturbing) the "sustainability" in one's country. Show these materials to the students and present the facts which are the problems. Think if there are any similar problems which exist in the country or the community.

展開１：【事実認識】（２時間）

各国が持つ「持続可能性」を阻害する（していると考えられる）現在の状況（問題）を写真、資料、切り抜きで表し、５カ国で共有する。これらの資料を生徒に提示して問題となる事実を示す。類似の問題が自国（自地域）にないか考える。

韓国：　国際結婚による言語習得、異文化受容問題、子どもの母語の問題･･･
フィリピン：貧困、人口増加、汚職･･･
タイ：　政治の分極化と人々の対立･･･
中国：　少数民族とその政策　暴動、人権、メディア検閲、農民工、環境と人権･･･
日本：　全ての人が幸福を目指せない社会(格差やあきらめ)、いじめ、自殺、日本企業のアジアでの生産による CO2 の排出や汚染、つながりや思いやりの少ない社会、他民族・他文化への偏見、少子高齢社会････

20

Data 1 - ①

中国西部の「百里汚染帯」

"The hundred miles pollution zone" of the

西部大開発の背景で、中国西部の一
題ももたらした。寧夏と内モンゴルの
以上並んでいる。中国西部の「百里汚

In a background of the western devel
rapidly in the western part in China and b
There were more than 1,000 factories
Ningxia and Inner Mongolia. That is calle
western part in China.

中国から

写真 1 ：Photograph 1:

Date 2 - ②

日本の企業が、中国・ASEAN 諸国で工場を建てて生産している企業数			
中国		1995 年	2008 年
	現地法人数	743 社	2376 社
ASEAN		1995 年	2008 年
	現地法人数	1109 社	1783 社

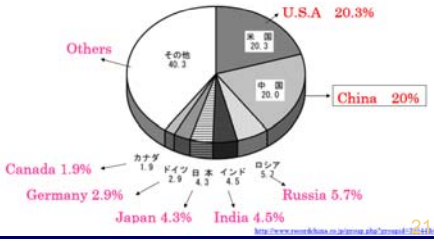
出典：我が国の現地法人（製造業）の海外展開（出典：2008 年版ものづくり白書 図 121-11）

The number of the companies which a Japanese company builds a factory and produces in China / ASEAN countries			
China		1995 年	2008 年
	the local corporations* number	743 unit	2376 unit
ASEAN		1995 年	2008 年
	the local corporations* number	1109 unit	1783 unit

List: The overseas development of the local corporation (manufacturing) of our country
(source: Manufacturing white paper figure 121-11,2008)

日本から

二酸化炭素排出量の各国構成比（2006年）



21

日本から：先進国からのごみの輸出

Data 2－③ Export of the high-tech garbage from DevelopedCountries. To China, without being recycled

Data 2－④

22

日本からネット上のいじめ

I can't understand what you say.

You often say to others, "Die. Die"

If you are told so, can't you die ?

You can 't understand the sadness of the death.

Data 4

Cyber bullying

23

■ Programs for the Multi-Cultural Family

Data5

←韓国から 国際結婚と文化理解

1. The Korean Language Class & Korean Cultural Experience
They provide Korean culture experiences for the family to help overcome the differences coming from more than 2 cultures in a family as well as the Korean language class. It also Includes opportunities to experience traditional Korean culture along with family trip, a tour to library and several cultural heritages.

Data 6 — ②

写真２：歴史風致帯はがれきになってしまった。
Photograph 2: The history looks zone has become the debris

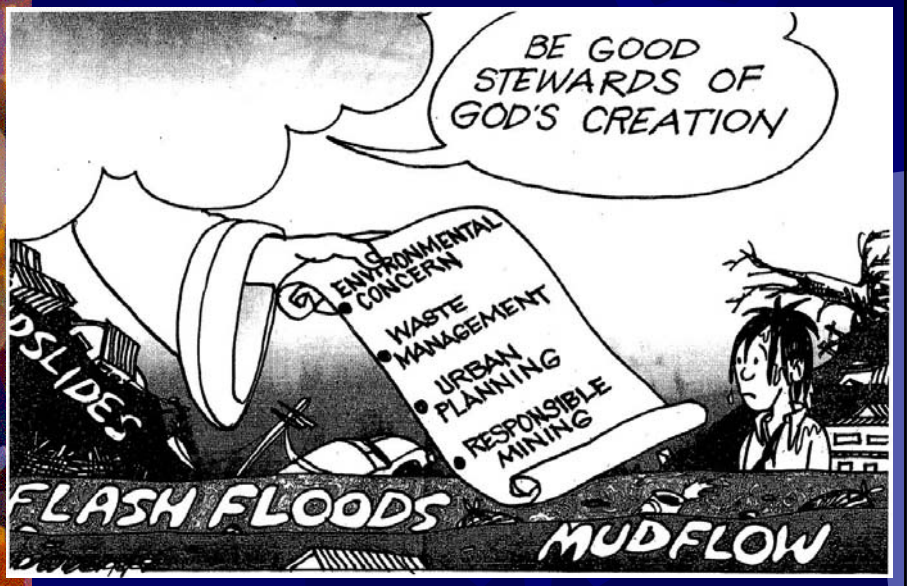
←中国から
歴史風致地区の破壊

写真３：歴史建築区取り壊す図（天津建築遺産保護ボランティア団体による製作）
黒色：取り壊される歴史建築。　赤色：確認された歴史風致保護区。
黄色：保護範囲に入ったけど取り除くところ。　灰色：すでに取り壊されたところ

Photograph 3 : The figure of a demolished history architecture ward
(Production by the Tianjin building inheritance protection volunteer group)
Black : going to be demolished history architecture
Red: confirmed history looks sanctuary
Yellow: going to be demolish although entered the protection range
Ash : already demolished ward

引用：新聞紙「南方週末」2009 年 5 月 20 日 http://www.infzm.com/content/28804
Quotation : Newspaper "south weekend" May 20, 2009

フィリピンから　人のあり方、社会の中の責任



25

日本から 支えあう社会を 阻害する行為

Data 8

The sidewalk which a handicapped person and a person with a wheelchair cannot go along

Data 8—(2)

26

Data 9

The problematic Environment of The Demonstration School of Thepsatri Rajabhat University Lopburi, Thailand

Lots of garbage in classroom

タイから　身のまわりの無責任から環境問題へ

Untidy things after building

Unclean drinking water tank

27

Step2

Step 2：【Analysis, Problem Comprehension】(2 hours) ····· (Student Group Discussion)

1．Why are these facts considered as a problem which disturbs "sustainability"?
2．In what way is that so?
3．Are there any common problems among the presented facts? If so, what are they?

展開２：【分析・問題把握】(２時間) ·····生徒によるディスカッション (Group)

１．なぜ、これらの事実が「持続可能性」を阻害する事実として問題か。
２．それが、どのように問題か。
３．これらに共通する問題があるか、あるとすればそれは何か、を考える。

28

Step3

Step 3：【Think about the "X" (e.g. attitude, system, value) in order to solve a problem】(2 hours)

1. How would you solve the problem? (How would you become involved with the problem?)
   Examples of methods
① First of all, recognize that these problems can be part of an Asian issue.
② Obtain information by accessing UN, UNESCO, The Framework Convention on Climate Change, and related organizations、
③ Think from the perspective of the school, community, country, and global scales.
④ Think of actions and practices which can be applied in our daily lives.

展開３：【問題解決のための 「 X 」(e.g. 態度、制度、価値) を考える】(2 時間)

１．あなたはどのように問題解決を成し遂げますか？ (どのように問題とかかわりますか？)

方法としての例
① まず、これらがアジアの問題(一部ではあるが)としてとらえられること。
② 国連、UNESCO、気候変動枠組み条約、関連機関などにアクセスして情報を得てみる。
③ 学校、地域から国、そして世界規模で考えてみる。
④ 身近なところでの行動や実践を考えてみる。

タイと日本の国際カリキュラム協同授業　2010.02.02
中国人民大学附属高校生徒の国際カリキュラム授業風景
2010.01
31

32

学習の4つの柱

Learning to Know 知ることを学ぶ
Learning to do 為すことを学ぶ
Learning to live together
共に生きることを学ぶ
Learning to be 人として生きることを学ぶ

- 天城勲監訳 『学習：秘められた宝』（ユネスコ「21世紀教育国際委員会」報告書、ぎょうせい、1997年

33

問題に薄々気づいていたけど、どう行動したらよいのかわからなかった

世界にどのような問題があるか知らなかった。

ニュースでは知っていたがこれが他の国の問題で、自分の国の問題だと考えていなかった。

私たち自身の問題だとわかっていなかった。

（Before） 実践前

（After）実践後の感想

世界で共通の問題が起こっていることがわかった。

自分が気づいて、自分の行動を変え、他の人に伝えたい。解決できそう。

他の国の人がどのような考えを持っているか、異なる視点を持つことができた

世界の問題が自分の問題から始まっていることがわかった。

34

ESD カリキュラムを終えて

＜タイでのカリキュラム検証訪問での学習後の感想抜粋＞

伊井直比呂（附属池田・北淀・羽衣代表）

グループ 2：この ESD の授業を受けて、もちろん受ける前からこれらの問題にうすうす気づいていましたが、実際このプログラムに関わって、この問題が奥深く、いろんな問題が起こっていることが理解できました。今日の授業を受けて、やはりすべての問題が我々人間から始まっているので、問題を解決するためには私たちから始めなきゃいけないと思いました。

グループ 6 からです。これらの問題については前から気づいていたが、自分からどう解決するかは知らなかったけれど、ESD のプログラムに関わってきたら、これらの問題を自分たちで解決できるのではないかと思うようになりました。そして、他の国でどのような問題が起こっているか、他の国の人がどのような考えを持っているかもっともっと理解できて、すごくいい授業だと思いました。この授業が成功したら、私たち世界が持続可能な社会をつくれるのではないかと思いました。

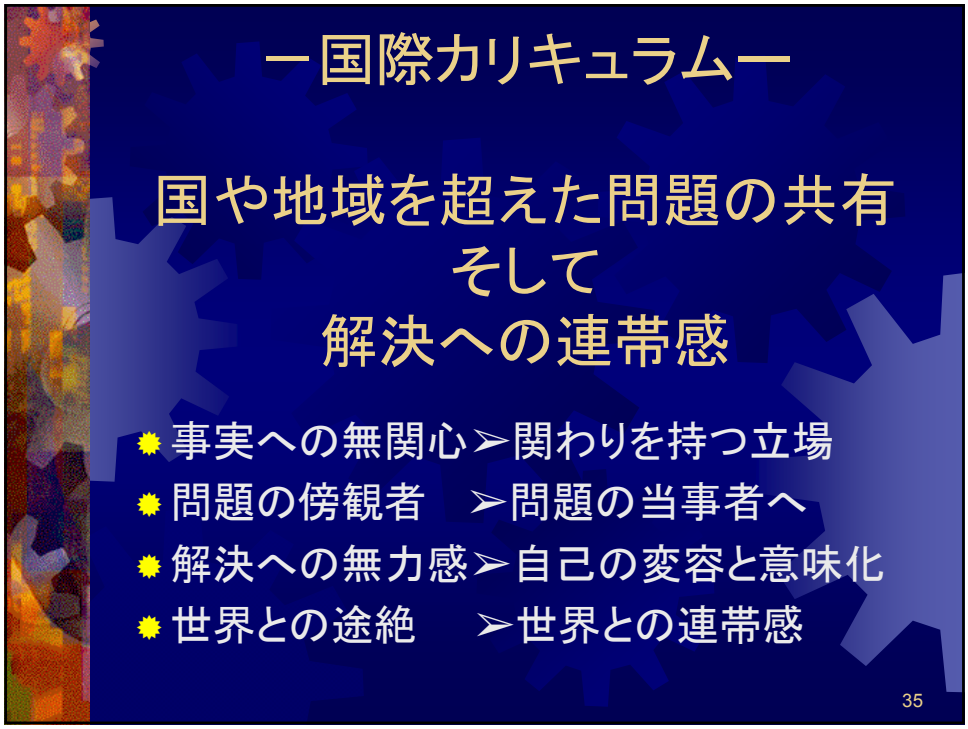
グループ 3 からです。このプログラムに関わるまでは、世界にはこんなたくさんの問題があることを全く気付きませんでした。ニュースで見たことはありますが私たちの問題だという考えは持ちませんでした。その問題はほかの国の問題で私の問題ではないと思っていました。しかし、今日のディスカッションに参加してから、これらの問題は人間、つまり私たちから始まることなので、私たちが自分の行動を変えなければこれらの問題はなかなか解決できないなと思いました。

グループ 1 から。今回の授業を通して、日本の中で話し合っていただけでは絶対得られなかった視点を新しく知ることができました。今回のように、違った国の人同士が同じ問題について話し合うことが、世界で行うことができたら、世界はもっと良いものになると思いました。

グループ 7 から。この学校では ESD プログラムはまだ授業ではなく部活動ですが、その部活動を通じて ESD プログラムについて知りませんでした。実際に外国人と意見を交換することは初めてで、今回のディスカッションに参加して、世界にはいろんな問題が起こっているのだなと思うようになりました。これらの問題は私たちの学校や町の中だけではなく、世界で共通の問題が起こっているのだなと理解するようになりました。その問題を解決するために、みんなの協力が必要だと思いました。みんなの協力があれば世界がもっと幸せになるのではないかなと思いました。

グループ 4 から。この ESD プログラムに参加する前は、世界にはいろんな問題が起こっていることに全く気付かなかったけど、今回意見を交換してから自分たちも協力すればこれらの問題を解決できるのではないかと思いました。もちろん私 1 人では解決できないと思いますが、自分が気づいて、自分の行動を変え、他の人に伝えたらもっとこれらの問題が解決できるのではないかと思いました。また、この ESD プログラムに参加して、未来のことをもっと考えるようになりました。

グループ 5 からです。このプログラムに参加するまでこれらの問題について全く知らなかったけど、今回の話し合いに参加して「世界にはこれらの問題があるのか」と気づきました。それらの問題に気づき、それらの問題が自分の身近な問題だと初めて知りました。これらの問題を解決するにはやはり私たちから変えないと、と思います。


ー国際カリキュラムー
国や地域を超えた問題の共有
そして
解決への連帯感
事実への無関心➢関わりを持つ立場
問題の傍観者　➢問題の当事者へ
解決への無力感➢自己の変容と意味化
世界との途絶　➢世界との連帯感
35